

秋吉台で聴くテープ音楽

2020/9/5 開場 17:00 開演 17:30

エレクトロニクス
有馬 純寿

ソプラノ
太田 真紀

《ペルセポリス》照明演出
足立 智美

- 料 金 | 一般 2,000 円 / ユース (25歳以下) 1,000 円 ※フレンズネット会員2割引
- チケット予約開始日 | 7月10日 10:00~
- 会 場 | 秋吉台国際芸術村 中庭(屋外)

およびコンサートホール [雨天時はコンサートホールのみ]

※屋外公演のため、当日の気候により長袖や虫除けなどをお持ちください。

※ご来場の際は、感染症拡大防止対策にご協力をお願いいたします。詳細はこちらをご覧ください。▶



[主催] 公益財団法人山口きらめき財団 秋吉台国際芸術村

[助成] 公益財団法人かけはし芸術文化振興財団

[企画協力] 有限会社 ナヤ・コレクティブ

[後援] 山口県、山口県教育委員会、美祿市、美祿市教育委員会、山口県文化連盟

山口県総合芸術文化祭 2020

Program

対談「テープ音楽の魅力について(仮題)」
有馬 純寿、足立 智美

湯浅 讓二《ホワイト・ノイズによるアイコン》(1967)
Joji Yuasa : Icon on the Source of White Noise
エレクトロニクス：有馬 純寿

ルイジ・ノーノ《ラ・ファブリカ・イルミネータ(照らし出された工場)》(1964)
Luigi Nono : La fabbrica illuminata, for female voice and tape
エレクトロニクス：有馬 純寿 ソプラノ：太田 真紀

日本
初演

ヤニス・クセナキス《ペルセポリス》(1971)
Iannis Xenakis : Persépolis
エレクトロニクス：有馬 純寿 照明演出：足立 智美

※イメージです。当日の配席とは異なります。

あの伝説の大作《ペルセポリス》、遂に日本上陸

芸術村に巨大な音響空間が現る!!

電子音楽の真骨頂!

この轟音の洪水にあなたは耐えられるか!?

日本初演 『ペルセポリス』

ヤニス・クセナキス (1922-2001)

『ペルセポリス』は、20世紀の電子音楽の歴史においてその存在を外すことが出来ない、56分間にも及ぶ音のコラージュ作品であり、ジャンルを超えその後のノイズ・ミュージックなどにも大きな影響を与えた。この曲は古代都市ペルセポリス2500年祭のための作品として委嘱され、1971年8月26日の夕刻に初演された。8チャンネルのテープによって構成され、初演時に

は古代ペルセポリスの遺跡街に59のスピーカーを配置、2本のレーザーと多数のサーチライトによって街を照らし、子どもたちの松明が演出をたとえられている。今回の演奏会では、秋吉台国際芸術村の『中庭』にあるステージを中心に、スピーカーを周囲に配置。常設展示『Laser』とともに、初演に近い雰囲気、いや、圧倒される轟音の洪水があなたを取り囲む!!



『ホワイト・ノイズによるアイコン』 『ラ・ファブリカ・イルミナータ (照らされた工場)』

湯浅譲二 (1929-)

ホワイトノイズとは、全ての可聴周波数を均等に含んでいる雑音(昔のテレビから流れるザーという音)のことである。1967年に作曲された『アイコン』はホワイトノイズのみを音素材として用いたにも関わらず多種多様な響きを創り上げているとともに、空間的な音の移動を含め緻密に作曲された世界でも類をみない作品で、彼の電子音楽の代表作のみならず、世界の電子音楽史でも極めて重要な作品の一つである。

今回使用される音源は、有馬純寿氏が2008年に約40年ぶりとなるオリジナルの5チャンネルでの実演公演にむけ、作曲家や関係者等から素材の提供を受け入念な調査のもと、音源の復元を行ったものである。今回も有馬氏の手によって、会場に合わせた音響で演奏される。

ルイジ・ノーノ (1924-1990)

ノーノが1960年に電子音響に出会い、イタリア放送協会の技師マリノ・ズックリーニとの協同にて1964年に作曲された電子音響作品である。この曲は鉄工場の労働現場において雇用者と労働者の間で交わされたありとあらゆる会話をドキュメントとして音の素材を盛り込み、その電子音響の上に女声の実演を伴う作品として作られた4チャンネルの電子音楽である。

秋吉台国際芸術村には彼が作曲した『プロメテオー聴く悲劇一』の上演を念頭においたコンサートホールがある。今年はその没後30年。節目の年に開村以来のノーノ作品の演奏が出来ることを彼は喜んでくれるだろうか。

滞在型創作活動(アーティスト・イン・レジデンス)を中心とした多方面の芸術文化活動の拠点として、1998年に世界的に著名な建築家、磯崎新氏の設計によって建築、開村。施設にはホール、食堂、研修室、練習用のスタジオ、ギャラリー、カフェテリア、そして宿泊室などが備えられている。日常の喧騒から解放されるように、町の中心から外れた低い丘に囲まれた静かな袋状地の南側斜面が敷地に選定。群鳥の空間モデル(アーキペラゴ)と設計者がいのように、様々な施設が敷地内に散りばめられている。日本初演となったルイジ・ノーノ作曲『プロメテオー聴く悲劇一』がこけら落としとして演奏されている。

《秋吉台国際芸術村》とは。

有馬純寿

Sumihisa Arima (エレクトロニクス、対談)

1965年生まれ。エレクトロニクスやコンピュータを用いた音響表現を中心に、現代音楽、即興演奏などジャンルを横断する活動を展開。ソリストや室内アンサンブルのメンバーとして「サントリーホール サマーフェスティバル」「コンポージアム」などの現代音楽祭をはじめ数多くの演奏会で電子音響の演奏や音響技術を手がけ高い評価を得ている。第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞芸術振興部門を受賞。2012年より国内外の現代音楽シー

ンで活躍する演奏家たちと現代音楽アンサンブル「東京現音計画」をスタート、その第1回公演が第13回佐佐木三賞を受賞した。東京シンフォニエッタメンバー。スガダイロー、石若駿などジャズミュージシャンや、国内外の実験的音楽家とのセッションも積極的に行っているほか、会田誠、小沢剛らとの「昭和40年会」をはじめ美術家とのコラボレーションも多い。帝塚山学院大学人間科学部情報メディア学科准教授。京都市立芸術大学非常勤講師。



Photo by Hiroyuki Matsukage

太田真紀

Maki Ota (ソプラノ)



同志社女子大学学芸学部音楽専攻卒業。大阪音楽大学大学院歌曲研究室修了。東京混声合唱団の団員として活動後、文化庁新進芸術家海外研修制度にてローマに滞在。シュルシ財団、ヌオヴァ・コンソナツァ・フェスティバル、サントリー芸術財団サマーフェスティバル、武生国際音楽祭、東京オペラシティリサイタルシリーズ

"B-C", いずみシンフォニエッタ大阪定期演奏会、ニュー・プランジュ京都他に出演。活発な演奏活動を展開。またTheatre E9 Kyotoにて音楽劇「触覚の宮殿」、森村泰昌氏「野生能」など舞台作品へも参加している。神戸大学非常勤講師。アンサンブル九条山のメンバー。

足立智美

Tomomi Adachi (ペルセポリス照明演出、対談)



パフォーマー/作曲家/詩人。声、コンピュータ、自作楽器によるソロ演奏を始め幅広い領域で活動し、ヤープ・ブロンク、坂田明、ジュニア・ウォルシュ、高橋悠治、一柳慧、伊藤キム、コンタクト・ゴング、猫ひろしらと共演、非音楽家との大規模なアンサンブルのプロジェクトも行う。自作のフィジカル・インターフェイス、脳波から人工衛星、テレパシー、骨折までを

用い、テート・モダン、ボンビトゥー・センター、ベルリン芸術アカデミーなどで公演。2012年、DAADベルリン滞任作曲家として招聘。2007年サントリー・サマーフェスティバル《ユーロペラ5》演出。2019年アルス・エレクトロニカ(オーストリア)デジタルミュージック&サウンドアート部門、Award of Distinction受賞。ベルリン在住。

新型コロナウイルス感染症対策について

- ご入場いただいた全ての皆様にご氏名及び緊急連絡先をお伺いいたします。お預かりした個人情報は、当該公演の来場者から感染者が発生した場合など必要に応じて保健所等の公的機関へ提供される場合があります。
- 公演当日は、検温を実施いたします。検温の結果、37.5度以上の場合、ご入場をお断りいたします。
- 感染予防のため、ご来場の皆様には咳エチケット、マスク着用、手洗い/手指の消毒をお願いいたします。

最新の情報をご確認下さい。



ご宿泊について

素泊まり(セルフサービス)にて、1名様よりご宿泊できます。自然に囲まれてくつろいでみませんか? お部屋の数に限りがありますので、ご予約・詳細はお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ】

〒754-0511 山口県美祿市秋芳町秋吉50
TEL: 0837-63-0020 FAX: 0837-63-0021
ウェブサイト: <https://aiav.jp>
e-mail: info@aiav.jp

秋吉台国際芸術村 Akiyoshidai International Art Village

